

石油業界の環境問題への対応

〔業界全体の取り組み〕

1. 現在、推進中の環境対策

〔日本経団連「環境自主行動計画」のもと、石油産業の地球環境保全計画として策定(1997年2月)〕

石油の精製、輸送の各段階で、**2010年の省エネルギー化目標**を設定

➡ 2010年目標に対して、**既に2002年度実績ベースで着実な成果をあげている**
今後も、計画の早期実現に向けて、**二層の省エネ化と省エネ技術の開発**に取り組む

[石油産業の地球環境保全自主行動計画と進捗状況]

部門	省エネ策の内容	1990年 (基準年)	2002年 (実績)	2010年 (目標)	2002年時点 の達成率
精製部門	製油所のエネルギー原単位 10% (スチーム削減、廃熱回収等) <small>原単位</small>	10.19	8.90	9.17	127%
輸送部門	燃料消費量 9% (ローリー大型化、バター取引増等)	151万KL/年	139万KL/年 (12万KL/年)	137万KL/年 (14万KL/年)	88%

2. 自動車業界と連携した今後の環境対策

➡ 運輸部門のCO₂削減に大きく貢献

今後、自動車の燃費向上と究極的なゼロエミッション化を目指し、

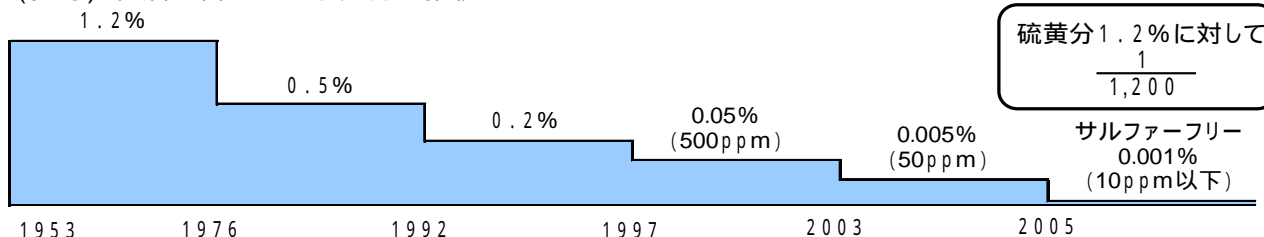
(1) 石油業界：**サルファーフリーのガソリン・軽油の早期導入開始に取り組む**

- ・ガソリン：2005年～一部供給開始、2008年～全面供給
 - ・軽油：2005年～一部供給開始、2007年～全面供給
- 世界最先端の対応** (EU：2009年～10ppm以下、米国カルフォルニア州：2004年～20ppm)

(2) 自動車業界：**サルファーフリー燃料を前提とした新技術搭載車の早期市場投入に取り組む**

➡ 新型エンジン(直噴エンジンで燃費改善10%超)の導入に伴う**自動車の燃費改善効果により、5年経過時点で200万トン/年のCO₂削減が可能**

(参考) 軽油に含まれる硫黄分の推移



〔石油各社独自の取り組み〕

	具 体 策
技術開発	燃料電池の開発 ・ LPG、灯油から改質した水素を使用する定置式、自動車用燃料電池の開発 ・ 水素ステーションの建設・運営
海外プロジェクトへの協力	ベトナムの油田で石油採掘に伴い発生する石油ガスを回収し、これを発電用燃料として、有効活用する事業を実施予定 アブダビの油田で発生する石油ガスを地下の油層に戻す事業を実施 オーストラリアでの植林事業、パプアニューギニア等途上国での森林保全事業を実施
その他	世界銀行炭素基金への参画 カード売上げの一部を国土緑化推進機構へ寄付 など

➡ 石油業界は、化石燃料を主に扱う産業として、環境問題には先進的な対応をしている